

# 嶋満神社便り

平成二十八年八月号(第二十号)

発行 嶋満神社奉賛会

## 狛犬さんの謎を解く

平成二十五年四月号から三号にわたってご紹介した当社の狛犬さんの謎についてのお話、皆様覚えておられるでしょうか？

先ごろ奉賛会員の鯉本様からご提供をいただいた泉源寺疎開前の古い写真をつぶさに調べたところ、この謎を解く新しい発見がありましたので、お知らせいたします。

まずその謎をかいつまんでご紹介しますと、当社の狛犬さんは、**泉源寺疎開時代の古い写真を見る限り、当時と現在では左右が逆ではないのか、しかも台座と狛犬さんがテレコになっているのではないか、それは昭和三十六年現在地への復帰時に入れ替わったのではないか、では疎開前はどうかであったのか、ということでした。**

ではよくご覧いただきましょう。疎開前の写真です…。



と言つてもよくわかりませぬよね。パソコンで拡大してみた結果(矢印部分)……。



向かって右

向かって右側の(よく見えている方)の台座には

「奉献」の「奉」の文字、そして狛犬さんは子供を抱いていません。泉源寺疎開時代の写真と同じです。つまり、疎開時には全く同じ配置で移されています。

一方、現在地の写真を今一度掲載しますが、ここでは向かって右側の台座の文字は同じ「奉」ですが、狛犬さんは子供を抱いています。(平成十七年撮影)



つまり、泉源寺疎開時には正しい配置のまま移されたのが、昭和三十六年の復帰時に左右の狛犬さんの位置が入れ替わっていたことが判明しました。(台座は合っています)

このように昔の資料を見ると、人の記憶ではあまりないことでも、いろいろなことが分かってきます。どうかご家庭にある古い資料をご提供ください。傷めないようにコピーや写真を取らせていただいた後、お返しいたします。

ところで二十五年五月号では、疎開前はまっすぐ前を向いていた狛犬さんが復帰時には対面型になっていると紹介しました。これについてはやはりスペースの問題としか考えられません。

どなたか詳細をご存知の方はお知らせください。

さて現在の当社の狛犬さんですが、一層風化が進み、全体に剥落が激しく大変悲しい状況です。



長い歴史の中で浮島の暮らしを守り続けてくれた狛犬さんをみんなで大事にしていきたいでしょう。